

食品に関するリスクコミュニケーション（東京）

EUにおけるリスクコミュニケーション研究の最前線 - EU SAFE FOODS プロジェクトの取組 -

開催日：2007年3月19日（月）

開催場所：星陵会館

回答者：56名

回答率：90.3%

問1 あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。

性別

回答内容	件数	割合
1 男性	46	82.1%
2 女性	10	17.9%
無回答	0	0.0%
	56	100.0%

年齢

回答内容	件数	割合
1 20歳未満	0	0.0%
2 20歳代	4	7.1%
3 30歳代	10	17.9%
4 40歳代	20	35.7%
5 50歳代	13	23.2%
6 60歳代	7	12.5%
7 70歳以上	2	3.6%
無回答	0	0.0%
	56	100.0%

職業

回答内容	件数	割合
1 消費者団体	3	5.4%
2 主婦、学生、無職	3	5.4%
3 生産者	0	0.0%
4 食品関連事業者・団体	32	57.1%
5 マスコミ	1	1.8%
6 行政	8	14.3%
7 食品関連研究・教育機関	3	5.4%
8 その他	5	8.9%
無回答	1	1.8%
	56	100.0%

その他FA

・種子化学 ・その他業界団体
 ・農薬輸入・製造・販売 ・コンサルタント

本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか

回答内容	件数	割合
1 食品安全委員会のホームページ	26	46.4%
2 食品安全委員会からのご案内資料	8	14.3%
3 食品安全委員会メールマガジン	19	33.9%
4 関係団体からのご案内資料	2	3.6%
5 知人からの紹介	0	0.0%
6 その他	1	1.8%
無回答	0	0.0%
	56	100.0%

その他FA

・農水省メールマガジン

本日の意見交換会に参加された動機

回答内容	件数	割合
1 EUにおけるリスクコミュニケーションの研究に興味があったから	23	41.1%
2 EUにおける食品安全に関する行政の取組を知りたかったから	20	35.7%
3 専門家と直接意見交換をしたかったから	1	1.8%
4 業務の一環として参加する必要があったから	4	7.1%
5 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから	6	10.7%
6 その他	2	3.6%
無回答	0	0.0%
	56	100.0%

その他FA
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年Dr.Houghton & Dr.RowelにInterviewを行った経緯から。 ・自分達が行うリスコミの参考にしたいから。

「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか。

回答内容	件数	割合
1 強くそう思う	39	69.6%
2 ややそう思う	15	26.8%
3 あまりそう思わない	2	3.6%
4 全くそう思わない	0	0.0%
5 わからない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
	56	100.0%

問2 本日の意見交換会についてお聞きします。

意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1 とても適切だった	3	5.4%
2 適切だった	47	83.9%
3 あまり適切ではない	3	5.4%
4 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	3	5.4%
	56	100.0%

開催方法（参加手続き・場所・所要時間）

回答内容	件数	割合
1 とても適切だった	5	8.9%
2 適切だった	47	83.9%
3 あまり適切ではない	2	3.6%
4 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	2	3.6%
	56	100.0%

配布資料

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	5	8.9%
2 わかりやすかった	43	76.8%
3 わかりにくかった	6	10.7%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	2	3.6%
	56	100.0%

専門家による講演

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	8	14.3%
2 わかりやすかった	37	66.1%
3 わかりにくかった	9	16.1%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	2	3.6%
	56	100.0%

パネルディスカッション

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	4	7.1%
2 わかりやすかった	38	67.9%
3 わかりにくかった	7	12.5%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	7	12.5%
	56	100.0%

意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	5	8.9%
2 わかりやすかった	41	73.2%
3 わかりにくかった	3	5.4%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	7	12.5%
	56	100.0%

意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1 評価する	12	21.4%
2 おおむね評価する	37	66.1%
3 あまり評価しない	0	0.0%
4 全く評価しない	0	0.0%
無回答	7	12.5%
	56	100.0%

問3 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで、をつけてください。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと (原則公開されていること)	46	82.1%
2 食品安全委員会ホームページ (http://www.fsc.go.jp)	51	91.1%
3 食の安全ダイヤル (食品の安全性についての情報提供やお問い合わせ、ご意見を受付ける窓口)	31	55.4%
4 食品安全委員会メールマガジン (e-マガジン)	46	82.1%
5 食品安全モニター制度	34	60.7%
6 季刊誌『食品安全』	36	64.3%
7 食品の安全性に関する用語集	37	66.1%
8 食品の安全性に関する政府広報	22	39.3%
9 その他	2	3.6%
無回答	0	0.0%
	305	-

その他FA

- ・意見交換会
- ・リスクコミュニケーション地域指導者講習会

問4 食品の安全性を確保していく観点から、意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げるテーマはどのようなものを希望しますか。（3つまで）

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1 食品添加物	14	25.0%
2 残留農薬	15	26.8%
3 食品中に存在する汚染物質・化学物質	18	32.1%
4 遺伝子組換え食品	19	33.9%
5 動物用抗菌性物質（いわゆる抗生物質）	5	8.9%
6 BSE	3	5.4%
7 食中毒 （微生物・ウイルス・かび毒・自然毒）	16	28.6%
8 鳥インフルエンザ	6	10.7%
9 新開発食品	5	8.9%
10 いわゆる健康食品	18	32.1%
11 リスクコミュニケーション	16	28.6%
12 食育	6	10.7%
13 その他	5	8.9%
無回答	1	1.8%
	147	-

その他FA

- ・食品照射
- ・毒性学教育
- ・アレルギー：法律の他にも全体的に。
- ・グローバルな対応の為、他国とのリスクコミュニケーション。
- ・放射線照射食品

問5. ご意見・ご感想

個人を特定できるものについては、 としています。

1	パネルディスカッションは、パネリストが多すぎる人が多いが、本日のパネルディスカッションは、コーディネーターを入れて3人としていたことが印象に残った。ただし、パネリストは別分野の人をもう一人入れても良かったのではないと思う。
2	専門的な事項、結果を分かり易く公表してほしい。
3	新開発でノーベルフーズの安全性評価について考えてほしい。今後、特保が厚労省から依頼された個別食品のみなので。
4	行政から国民へのメッセージは常に解り易く行うことを重要視して欲しい。英国で発表する際は、解り易い報道を策に考えているという話がありましたが、日本行政は学ぶべきです。解り難いものとして「官報」は最たるものです。聞く人、観る人、読む人の立場に立って考えてください。
5	食糧の供給量の不足からGM食品について、流通することの是非を問う時期は大変近づいていると考えています。積極的なリスクコミュニケーションの開催と広報活動をお願いします。
6	EU Safe Food projectは全体の様子が多分分かったが、もう少し詳しい調査結果を定量的に示していただけるとより参考になります。今回全体としてEUの状況、多様性は分かりましたが、日本への教訓というtakeawayは少なかつたイメージです。ActionにおとしこめるLearningがもう少し欲しかったです。
7	意見交換会であるのならば、もっとフロアから質問や意見をすいあげて議論ができるような雰囲気作りも必要だと思う。
8	消費者の方々の安全の為に常々努力はしているが、自分の世界だけの考えに陥っていないか、消費者、報道、研究者、行政がそれぞれの分野のみをもって動いている感は大い。消費者に対する講演も行っていますが、消費者全体の評価としては、一部の関心事にしか興味を持っていない。多くの情報（正しい）を適切に発信し、コミュニケーションを深めていかなければならないと感じた。
9	食品でゼロリスクはないということの消費者への啓蒙。危険の度合を身近なものを例に挙げて説明する努力。（例えば、食品添加物とタバコやコーヒーなどのリスクの比較。）
10	各論としてハザードについてのリスクコミュニケーションも必要ですが、それ以前に「リスクコミュニケーション」自体についてリスクコミュニケーションすることが重要かつ必要だと考えます。・リスクとは？（ハザードとリスク）・メディア報道の特徴とは？・受け側の心理（行動心理学的に）メッセージ：メディアリテラシーがないと情報に振り回される。まず、このベースを合わせておく必要があります。
11	食の安全に関する正しい知識の普及は、政府全体が一体となって進めてほしい。食品添加物無添加表示を、公正取引委、農水省が推している。これでは一般の認識は高まらない。子どものときからのスリ込みでの文科省の役割も同じ。（ さんの言うとおり）
12	食品安全モニターとして毎回出席させていただいています。勉強し知識を得ている感じで有難く思っています。地域に帰っては機会あるごとに、主に（幼児と母の遊び（子育て）集会）の折に、食品の安全についてパンフレット等持参し、説明したり食の大切さ、食の安全性について話し合いを持ちますが、一番今まで思っていたのはリスク認知の違いだったと思います。今日はそこの所の差、 さんの話も参考になりました。
13	リスクコミュニケーションの手法は種々のやり方があって良いのではないかと。形式にこだわることなく、国民の理解と資質をどのように向上させるかが重要なテーマであると考えている。
14	海外の状況を知るいい機会なので、今後も継続して頂きたいと思います。同時に、日本での取り組みをもっと進めて頂きたいと思います。厚労省、農水からの依頼だけではなく、もっと食品安全委員会としての独自のテーマに取り組んで頂きたいと思います。安全委員会の委員は自分の職もって取り組んでいるので、時間の制約があるかもしれませんが、もう少し積極的な活動を期待します。
15	食品安全委員会のPRではなく、食品安全を取り巻く問題点を分かりやすく、1つ1つ消費者が納得できる型で解決してゆくことを望む。
16	正しくないマスコミ報道に対して、正しい事実を伝える立場を貫いて下さい。そうでないと不二家さんをはじめ不適切な報道で殺されてしまう企業は浮かばれません。（私も雪印にかつて在籍し、ありもしない事実が報道され、それが未だに生き残っていることに口惜しい気持ちを持っております。）
17	外国の方の異なった見方を聞けて、非常に新鮮だった。また違ったテーマでの実施をお願いします。
18	・食品安全委員7名中2人は消費者代表を入れる。信頼を得るためです。・リスコミは言いつばなし、聞きつばなしになっている。意見は取り入れるようにすること。・意見交換会の目的が、主催者側が意とする方向へ消費者を誘導することにあるように思える。先般、内閣府の原子力委による放射線照射食品の拡大（香辛料の許可をとる目的）についての場合もそうでした。・食品安全基本法の目的をよく考えた施策をとってほしい。
19	食品安全委員会のHPは専門家には役立つが、一般消費者向けには専門的過ぎる気がする。自治体などに任せるのではなく、素人向HPの作成やマスコミへの露出を通してのPRに努めてほしい。
20	政府の機関の中で、一般国民にも大きく扉を開き意見を求める方針はすばらしい。目線が国民に有り偏りが無く信頼感がある。